

花見に小銃は似合わない、自衛隊武装パレードは中止を

市内の平和団体、労働団体などが上越市副市長に要請



高田城百万人観桜会開催中の19日に陸上自衛隊高田駐屯地の隊員が市中を武装してパレードする問題で市内の平和環境労働組合会議、平和委員会など14団体が16日、上越市に対して武装パレードを中止するよう強く求めました。政党では日本共産党、社会民主党、新社会党の上越地区の代表も参加しました。

まず14団体を代表して、「花見に銃は似合わない」弁護士有志の会の馬場秀幸弁護士が、「昨年も、観桜会のイメージを損ねる、非核平和友好都市宣言の趣旨に反するとして反対したが、今年も行われると聞いて驚いた。中止するよう要請する」と要請文を読み上げ、関原副市長に手渡しました。関原副市長は、「市長に伝える」とのべました。

関原副市長や秀沢産業観光部長等との意見交換では、「武装パレードは市がこれまで取り組んできた、花見客にゆっくり鑑賞してもらいたいというものと違う。威圧感を覚える。自衛隊はどうかという問題ではない」「今年始まった話ではない。昨年申し入れたが、昨年の取組をどう検証されたのか」

「昨年のパレードを見たが、大震災の際、活躍した重機に続いて、小銃をぶら下げた自衛隊員や装甲車が重々しくパレードした。なぜ平和のシンボルとされる桜の花見会場をパレードしなければならぬのか。違和感を感じた。そう思っておられる人はたくさんおられる」「非核平和友好都市宣言をした市としてどう総括をしたのか」などといった意見や質問が相次ぎました。

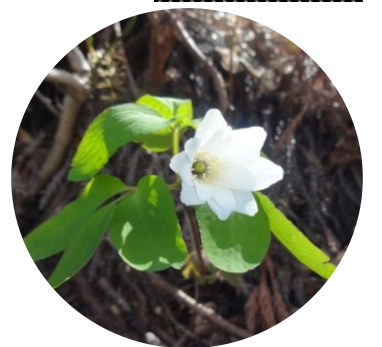
その中で、「自衛隊が小銃を携行すると威圧感を与えるから控えてくださいなどと市は自衛隊に要請したと報道されている。ところが、自衛隊からはゼロ回答だった。その点どう考えるのか」との質問を契機に激しいやりとりになりました。市側は、「威圧感を与えないようにと要請したことは事実だ。音楽隊も増えたし、小銃を市民に向けてすることはない(とのことだった)。自衛隊も威圧感を与えないという意味では理解してくれている」と反論しましたが、14団体からの参加者はその説明に納得せず、今後も運動を展開していくことを確認しました。

「夢は牛のお医者さん」の舞台

松代の助平へ行き、感動

9日、市内の山間部へ行ったついでに足をのびし、松代の助平(あざみひら)まで行ってきました。ドキュメンタリー映画、「夢は牛のお医者さん」の舞台となったところです。

旧助平小学校の建物や高橋知美さんのお



【アズマイチゲ】漢字で「東一華」と書きます。キンポウゲ科の多年草。キクザキイチゲと似ていますが、葉の形が違います。こちらの方が大きい。写真は吉川区の山間部で。

父さん、勝美さんの牛舎などを外から見させてもらいました。一番印象に残ったのは旧助平小学校の校庭にあった「愛の祈念像」です。像が作られたのはいまから24年前です。像の下の方には高橋知美さんや真治くんたちの名前が制作者として刻まれています。教職員という文字も見えました。また、「思いやりの心育てとこれを建てる」という文章もありました。子どもたちと教職員が力を合わせ制作したことがわかります。

像には親豚と子豚をかわいがっている子どもたちの姿が刻まれていました。牛や豚を愛し、地域のみんなで学校を守り、子どもたちの成長のために頑張ってきたことがよくわかります。

現地へ行って初めて気付いたのですが、



昨年の秋、松代から柏崎の妻の実家へ行く時、道に迷って入りこんだ集落がこの助平でした。だから、助平は私にとって、2度目の訪問だったのです。写真は「愛の祈念像」と私。

はしづめ法一の活動レポート

No.1653 2014.4.20

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628 吉川有線 4867

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い 第三〇一回 スイセン

青空の広がる天気が続いています。木々が芽吹き、近くの里山ではヤマザクラやコブシ、ムシカリなどが白い花を咲かせています。この時期、写真に撮りたくなる風景が次々と出現しますが、今年は思いがけない風景と出合う機会が何度かありました。先日の夕方のことです。夕日の写真を撮ろうとわが家の牛舎脇の荒れた畑に入ると、低い位置から夕日にカメラを向けた瞬間、アツと思えました。私の足下にスイセンが広がっていたのです。それもひとつやふたつではありません。雪で倒れたカヤの下から数十本、いや数百本のスイセンが黄色や白の花を咲かせていたのです。思いがけずたくさんスイセンに出会えた、それだけでもうれしかったのですが、そこで畑を作っていたTさんの姿も思い出し、胸が熱くなりました。

Tさんは隣集落の下中条に住んでいた人で、数年前に病気で亡くなっています。元気なころは毎朝、自転車に乗ってこの畑まで来て、ナスやキュウリなどの野菜を作っていました。手先の器用なTさんのことですから、畑には野菜だけでなく、花も作っていました。スイセンを何本か植えていたとしても不思議ではありません。

スイセンの花に見とれている間に夕日はスツ、スツと沈んでいきます。夕日の写真はほんの一、二枚しか撮れませんでした。でも、日が沈んでからの夕焼けがまた魅力的でした。どう表現したらいいか迷うほど次々と変わる温かい色合いの空間が夕日の見えた西の空にできていました。私はうっとりして、スイセンを入れた夕焼けの写真も撮りました。

それにしても、いつたい、いつの間にこれほどスイセンが広がったのか。私自身、毎年、この畑のそばに来ていたはずなのに、なぜいまままで気付かなかったのか。カヤが新しい芽を出し、生長を始めれば、この畑全体が緑色のカヤ野になりますから、花の咲く時期にこの畑のそばに来なかつたのではと言われれば、そうかも知れません。でも、信じられない思いでした。

翌日になってもスイセンのことが気になりました。再び畑の中に入りました。雪の重みで押し倒されたカヤの上を歩くと、バリツ、バリツという音がします。明るい陽射しの中で見たスイセンのなかには、花を咲かせたものだけでなく、まだカヤの下でつぼみの状態のものがたくさんありました。葉っぱだけのものもあります。そっと指で葉を挟んでみると、ニラの葉のような感触がありました。

たまたま、畑仕事に来ていたTさんの近所のチョコさん夫婦に、「あそこのスイセン、前からあんがにいつぺことあったかいね」と訊いてみました。

チョコさんによると、たくさんスイセンの大きくなったものは数十年前、チョコさんともう一人、Tさんの近所に住むカズコさんが柏崎市の鉢崎で購入してきたものだというのです。私が目にしたスイセンは、チョコさんたちからTさんが分けてもらった自分の畑に移植したものだということでした。黄色と白のスイセンのうち、黄色のもののは自力でどんどん増え続けていくのだそうです。ただ、白い花のものもあちこちにありました。Tさんが亡くなってからも誰かが植えたものなのでしょう。

三〇年ほど前、私が牛舎脇の畑でソルゴーなどの飼料作物を作っていた時、下中条のTさんやSさん、Kさん、竹直のKさんなどから何度もサイレージづくりを手伝ってもらい、助けていただきました。素敵な景色に出会い、昔のことも思い出すことができたのはスイセンのおかげです。あの頃もスイセンは咲いていたのでしょうか。

努力することが大切」と話され、生徒たちを励ましました。

新入生を代表して柳澤郁真さんは、「授業についていけるかなど不安があるが、職業体験など、楽しみにしている。仲間たちと支え合い、頑張っていきたい」と「誓いの言葉」をのべました。

夢に向かって頑張れ

入学式のシーズンです。私は今月7日、市立吉川小学校、県立吉川高等特別支援学校、市立吉川中学校の3つの学校の入学式に参加、新入生を励ましてきました。

このうち吉川高等特別支援学校では、男子13名、女子4名、合計17人が入学しました。式辞の中で赤松校長は、ソチのオリンピック、パラリンピックでがんばった浅田真央選手、出来島桃子選手の写真を用意して2人の頑張りを紹介、「ふたりとも夢をあきらめないで挑戦する選手。何があっても夢に向かって



写真は柿崎区岩野のしだれ桜



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	4月9日(水)	4月16日(水)
上越南消防署	0.036	0.033
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.057	0.047
名立分遣所	0.047	0.050

山菜料理を楽しむ政治と暮らしを語る会

恒例の「山菜料理を…会」を今年も開催します。ぜひご参加を！申し込みは日本共産党議員団の議員に。

日時：5月5日 午後3時から5時まで

場所：吉川多目的集会場(原之町、吉川体育館脇)

参加費：一人当たり1000円。飲み物、料理持ち込み歓迎